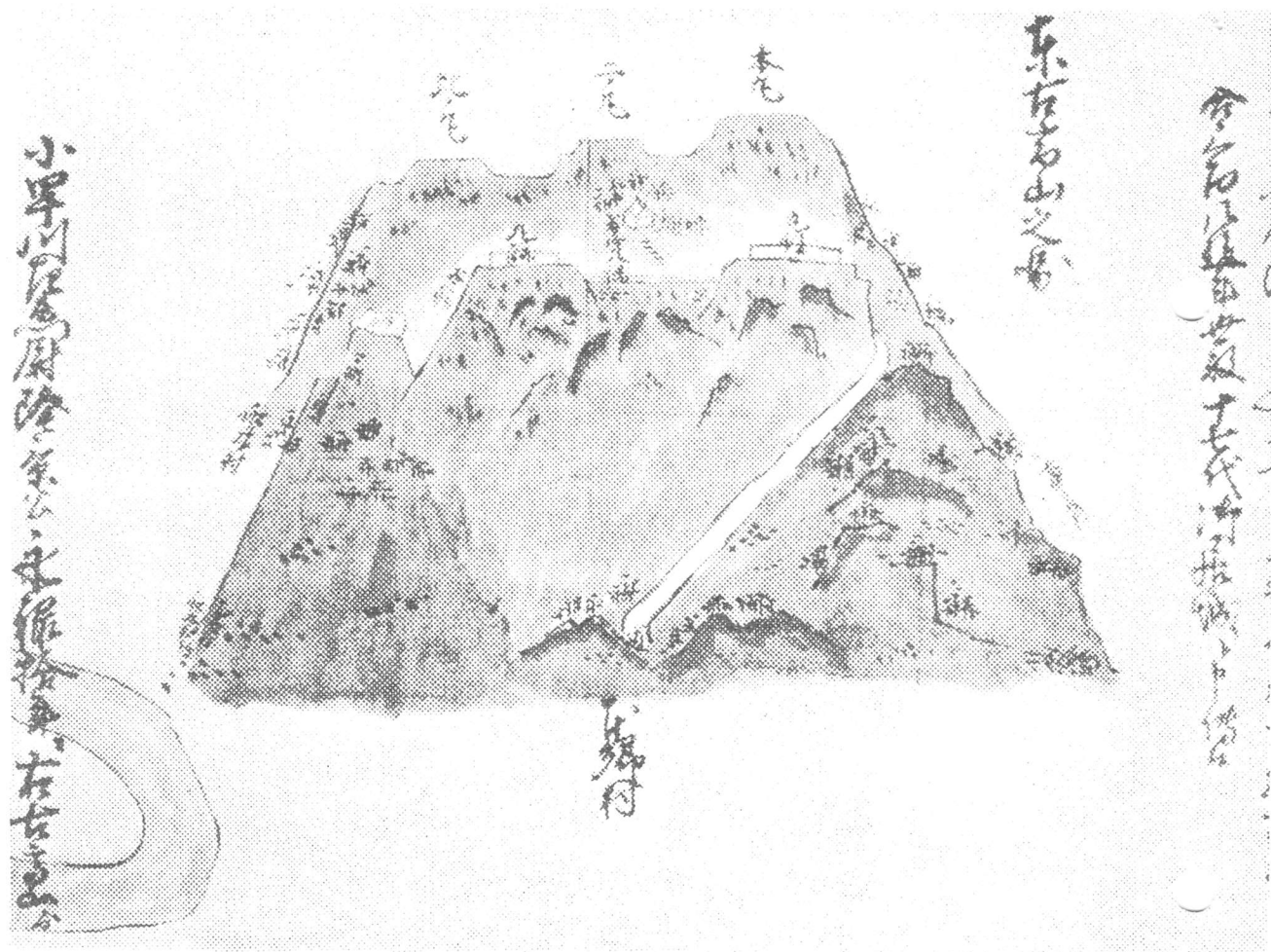


小早川氏の名城、高山城に登る



東古高山之図(三原歴史民俗資料館蔵)

主催 備陽史探訪の会 講師 田口義之

平成11年2月21日(日)

三〇七 足利義詮御感御教書寫

「義春」

安藝國妻高山城合力事、小早河備後前司貞平所注申也、尤神妙、彌可抽戰功狀如件、

文和四年六月廿三日

(花押)

小早河樂壽殿

三五 小早川宗順巨真寺置文案寫

(小早川寺)
天心置文

夫當寺者、地頭小早河美作守平茂平法名本佛爲願主、嘉禎元年歲次乙未、開山創寺号巨真山寺意趣所以者何、爲奉祈三代將軍之願證菩提也、然則、無

幾功既畢、同四年十一月十一日、白一條入道殿大政大臣家、開當庄之内鹽

入荒野、爲地頭一圓之計、可歸附當寺申之免狀在之、同年改元之歲也、曆仁元年十二月一日、關東之御教書拜領之、又安直本郷内十餘名名与配、段

別四斗六升代五町年貢、但在此所不定差物也、文書見之、被充諸堂佛餉灯油修理等、自爾以來、祈代々將軍之現世安穩後生善處、至于今不退轉、寺領等又

無相違者也、數通之寄進狀規式置文等、高山城回祿之時、悉燒失畢、而間、寺務者効舊儀、寺領者任當知行、無相違可相續由、以當檀那沙彌宗順置文、

可爲末代之与證者也、仍代々將軍家之御菩提并當御代御祈禱、可被致誠精之狀如件、

定規式事

一晝夜勤行不可有退轉事

一山中用木、寺用之外不可截事

一於當寺之所領段錢以下官家諸役可停止事

右、任條々往古之例、可有其沙汰之狀如件、

應永五年十月八日

(香平) 宗順在判

三八七 足利義視御内書寫

就鷹山城之事、備後安藝兩國、猶以、合力之儀、被仰下候、早速落居之様申談者、可然候、委細猶大内左京大夫可申候也、

四月二日

小早河中務少輔殿

三八八 大内政弘書狀寫

就鷹山事、具達、上聞候之間、被成遣、御内書候、御面目之至候、殊備藝兩國衆同可有合力奔走之由、被成、御内書候、旁以御祝着察存候、早々彼城事被責落、被達御本意候之様、御計略可爲本望候、委細野間兵部少輔可被申候間、令省畧候、恐々謹言、

卯月二日

小早河中務少輔殿

一九三 細川政國書狀寫

知行分高山城事、備藝御敵令對陣、及難儀之由、達、上聞方々へ合力事被仰付、被差下上者、御方事申合、被退彼御敵候者、爲西國可然候、仍被成下御内書候、面目之至候、恐々謹言、

正月十三日

小早河掃部助殿

一九四 細川政國書狀寫

小早河掃部助知行分藝州高山城事、備藝御敵令對陣、及難儀候之間、不移時日合力掃部助候者、可爲忠節之由、被成下御内書之条、面目之至候、恐々謹言、

正月十三日

松田彦次郎殿

政國(花押)

二〇九 足利義政御内書寫

小早川掃部助元平知行分藝州高山城事、既及難儀云々、不移時日、合力
(是書)
元、勵戰功者、可爲神妙候也。
(文明六年)

十二月十八日 (花押)

松田彦次郎とのへ

二一〇 伊勢貞宗添狀寫

就藝州御知行分高山城難儀、合力事方々被仰付候、早被相談彼面々、不日
被對治御敵候者、西國之儀可然候由、被仰出候、仍被成下御内書候、御面目
至候、恐々謹言、
(文明六年)

十二月十八日

貞宗(花押)

小早河掃部助殿

進之候

二〇七 足利義政御内書寫

知行分藝州高山城事、敵取寄陣、及難儀云々、早馳下、相談御方輩等、可抽戰
功、然者、爲西國可然候也、
(文明六年)

十二月十八日 (花押)

小早河掃部助とのへ

二〇八 伊勢貞宗添狀寫

小早河掃部助方知行分藝州高山城事、既及難儀由、達 上聞候条、不移時
日、合力掃部助方、可被抽忠節之旨、以御内書被仰下候、御面目之至候、別
而被廻武略候者、殊可然候、恐々謹言、
(文明六年)

十二月十八日

貞宗(花押)

松田彦次郎殿

一九九 伊勢貞宗奉書寫

小早河掃部助方知行分藝州高山城事、先度以 御内書被仰下候、時宜于
今遲々、不可然候、仍重而被成遣奉書候、不日有御合力掃部助方、一段可被
抽軍忠由候、恐々謹言、
(文明七年)

三月廿八日

伊勢守貞宗(花押)

謹上 山名彈正忠殿

二〇〇 細川政國軍勢催促狀寫

就藝州高山城合力事、被成下 御内書候、仍寫下之、任此旨、爲彼城寄手
後攻、可被抽忠節候、恐々謹言、
(文明七年)

四月二日

政國(花押)

備前備中國之官人中

二〇一 遊佐長直書狀寫

御狀兩通到來候、則致披露候處、以書狀被申候、仍御敵之衆、于今無退散
儀、無心元候、公儀并山名殿邊之事、聰明殿へ御注進肝要候、自然之儀、屋形
不可有疎略候、次ニ御下向之折節不存候間、參不申入候、非本意存候、他事
期後信候、恐々謹言、
(文明七年)

卯月四日

遊佐河内守
長直(花押)

小早河殿

御報

二〇二 小早川元平書狀案寫

就高山城攻口開陣事、國家御狀之趣、委細拜見申候、仍熊井田本郷、安直
本郷、梨羽北方等事、雖非覺語候、子細以連署承候上者、可隨御指南候、猶

御兩人に以面申談候間、御意得肝要候恐々謹言、

(文明七年)
四月十一日

元平

宮田備後殿

宮 若狹守殿

宮 五三郎殿

御宿所

二〇三 幕府奉行連署奉書寫

去月五日於藝州高山城合戰之時、被官人等分捕以下、別註文在被忠節云々、尤神妙彌可抽戰功之旨、可被加下知之由、所被仰下也、仍執達如件、

文明七年四月十七日

(飯尾元連)
大和 守花押
(松田秀興)
丹後前司 花押

小早川掃部助殿

二〇四 政信盛忠連署狀寫

就高山攻口開陳之儀、備州并國衆以一筆被申候趣、當座御武略之儀候間、更以不可成御難候条、兩人申合、愚意之趣申入候、御承引候様ニ候間、面目至、於身視着候、兩狀之書狀ニ被申候上者、雖不及申入候、開陳已後御違篇、不可有余儀候由、以口上皆々ニ被申候、上意と申、別而御殿者之事候間、御爲於不可然儀者、不可申次候へ共、無爲ニ可被達御本意事、公私御爲肝要存候間、申入候つ、萬一備州國衆彼書狀旨相違儀候共、兩事者、可爲御動同前候、仍兩通持進候、將又、兩陳共ニ今日廿三開陳候、目出度候、委細猶使者可申候、恐々謹言、

卯月廿三日

淺忠花押
政信花押

小早河掃部助殿 御宿所

二〇五 高山城開陣時證狀覺書寫

○コノ文書ハ、文明七年ノモノナルベシ、

應仁大乱中、一族竹原弘景至高山城取懸弓矢事ニケ度、已前於攻口參ケ年在陣、其後文明五年九月、取懸之、備後國人等爲御敵之間、合力竹原、經三ヶ年、山名殿被參御方、然間、備後國御方之上ハ、無左右可開陣之處、蒐角難澁之、雖然、自京都御下知重疊シテ終令開陣、猶於國色々依申、庄伊豆守元資宮田備後守教言兩宮以下以取合、文明七年卯月廿三日、攻口悉令歸陣畢、其時方々申談書狀等也、

此口ノ裏書ニ
高山城開陣ノ時證狀

以上出典

『大日本古文書』家わけ第十一

小早川家文書所収「小早川家証文」

次ページの史料は

『萩藩閥閥録遺漏』卷二一一

国貞平左衛門差出文書

方々御書共被城候、面目之至候、(山崎)彈正殿・武田などにも堅被
御付候、目出候、暮々日夜用心不可有油断候、しのひの用心

(小早川)よくよく可被申候、南方の谷々へ、夜るひるも人を可被置候
竹原不思儀弓矢取かけ候、曲事候、度々合戦此方得利之

由申候間目出候、取分舊冬十七日合戦之事、皆々ふるま
い心地能きをさんし候、御内の事しかと在城候て(小早川)小法師
用心之由申候、誠悦喜之至候、小法師にそひ候て用心候

はん事、いかなる高名にちまし申へく候、たのミ入候、
恐々謹言

(元治)

正月二日

(山崎)國貞七郎左衛門殿

(小早川)

元平判

6 (元治)

生口因州在城事候間、早可被申談候

(山崎)

彈正殿預御合力候、誠以祝着畏入候、仍竹原所々大路發
向之事本望至候、面々祝着令察候、(安達)高崎之事定まつ諸居

候歟、我々御殿事口々催促申候、早々下向仕度心中無申

計候、隨々當城事面々在城候間、用心以下事心安候、万

能々可被申合候、憑入候、いかにも日夜用心かんよう二

て候、夜ハ一向城戸たてあけきんせいあるへく候、夜る

の事ハ中々無申事候、ひるの用心堅可被申付候、さいと

くあらくるい候など可被申候、謹言

六月十七日

元平判

國貞七郎左衛門殿

眞田出雲守殿

此の書中へ可被申候

其後國之時儀如何候哉、無心元候、替題目候も定可有注
進存候へ共、無其議候冬、不相替以前之かと存候、兼又

(備後)備後國不取違候事言諸事曲事候、然間今度も御衆其外
庄伊豆守以下二爲上意取寄候、先々面目至候、定被面

々被進計時儀する哉、替以意見等無承由も、各任奉書之

旨可有合力候歟、然も可然様申合候て馳走彌肝要候、度

々忠節一段可致發美候、次近日京都無何事候、但御方之

御勢諸國より着陣候間、一途可有御了簡候哉、然も御敵

落居一定候、可心安候、暮々當城于今無爲無事、一向面

々武略之故と存候、誠以忠節無比類候、替儀候も急度可

有注進候、委細猶巨眞寺・兵庫助かたへ申下候、定可有

御了簡候、謹言

(文明六)

九月十五日

元平判

國貞七郎左衛門入道殿

眞田美濃守殿

眞田出雲守殿

眞田長門入道殿

有田肥前守殿

草井和泉守殿

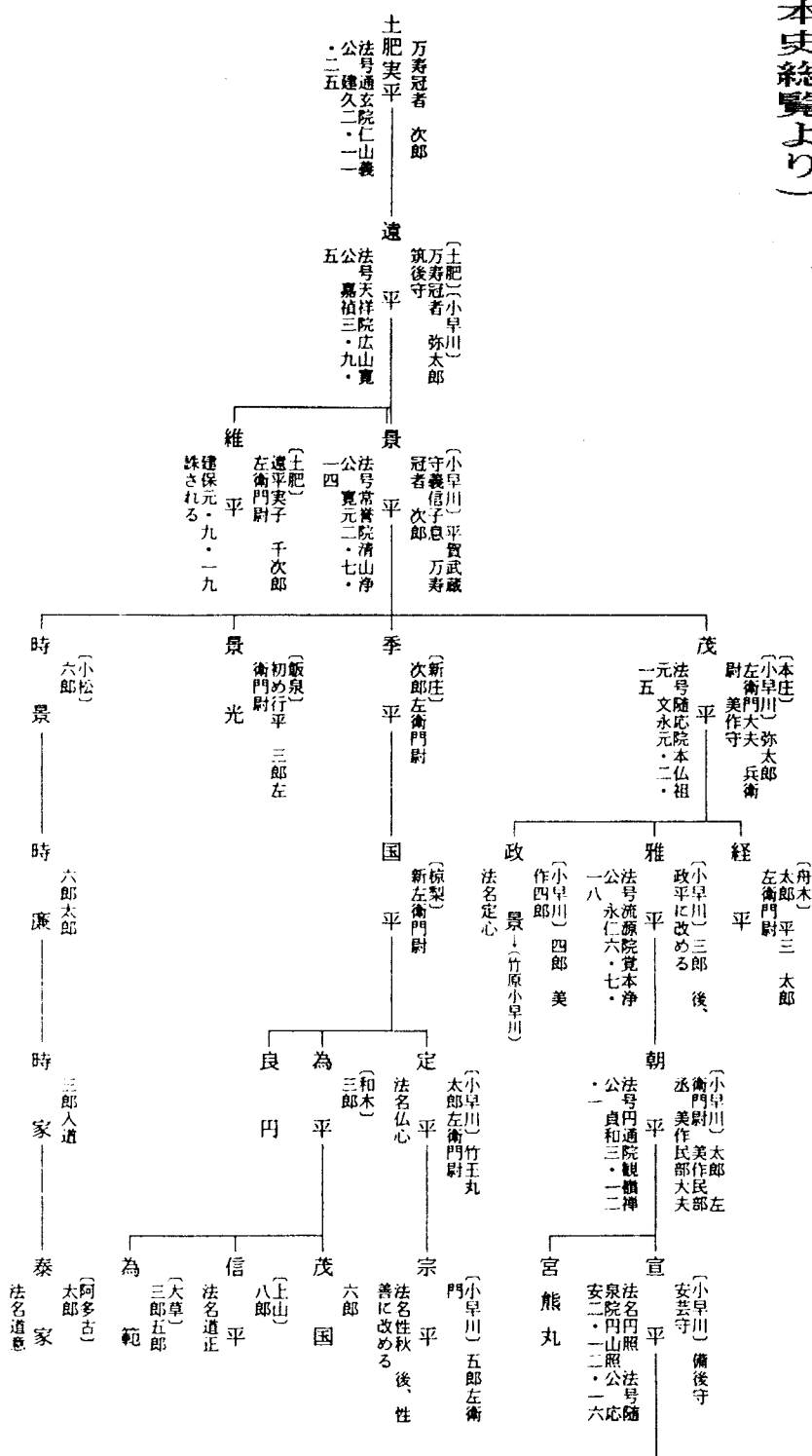
土屋備前入道殿

神足孫左衛門尉殿

神足孫左衛門尉殿

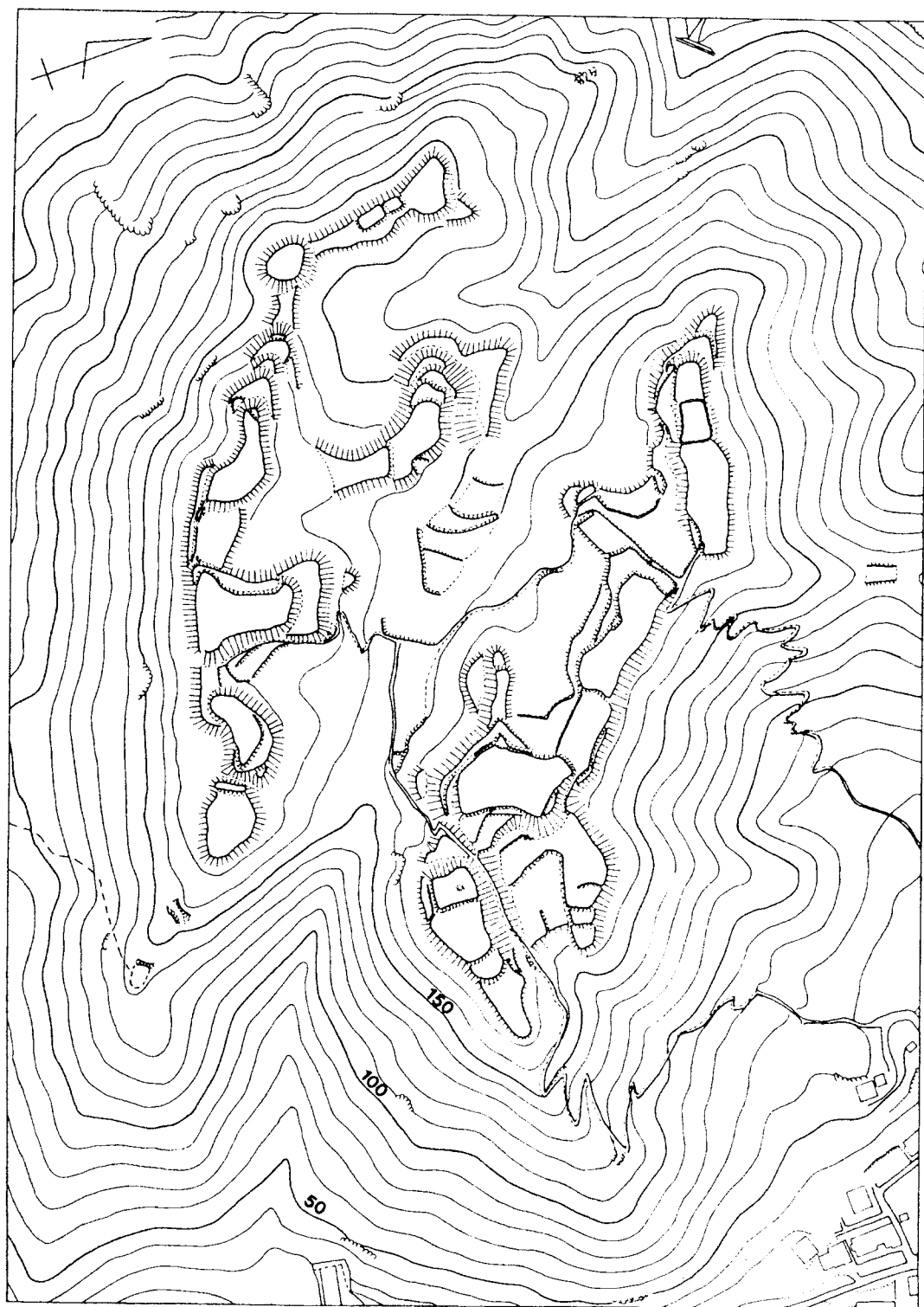
小早川氏系図

(日本史総覧より)

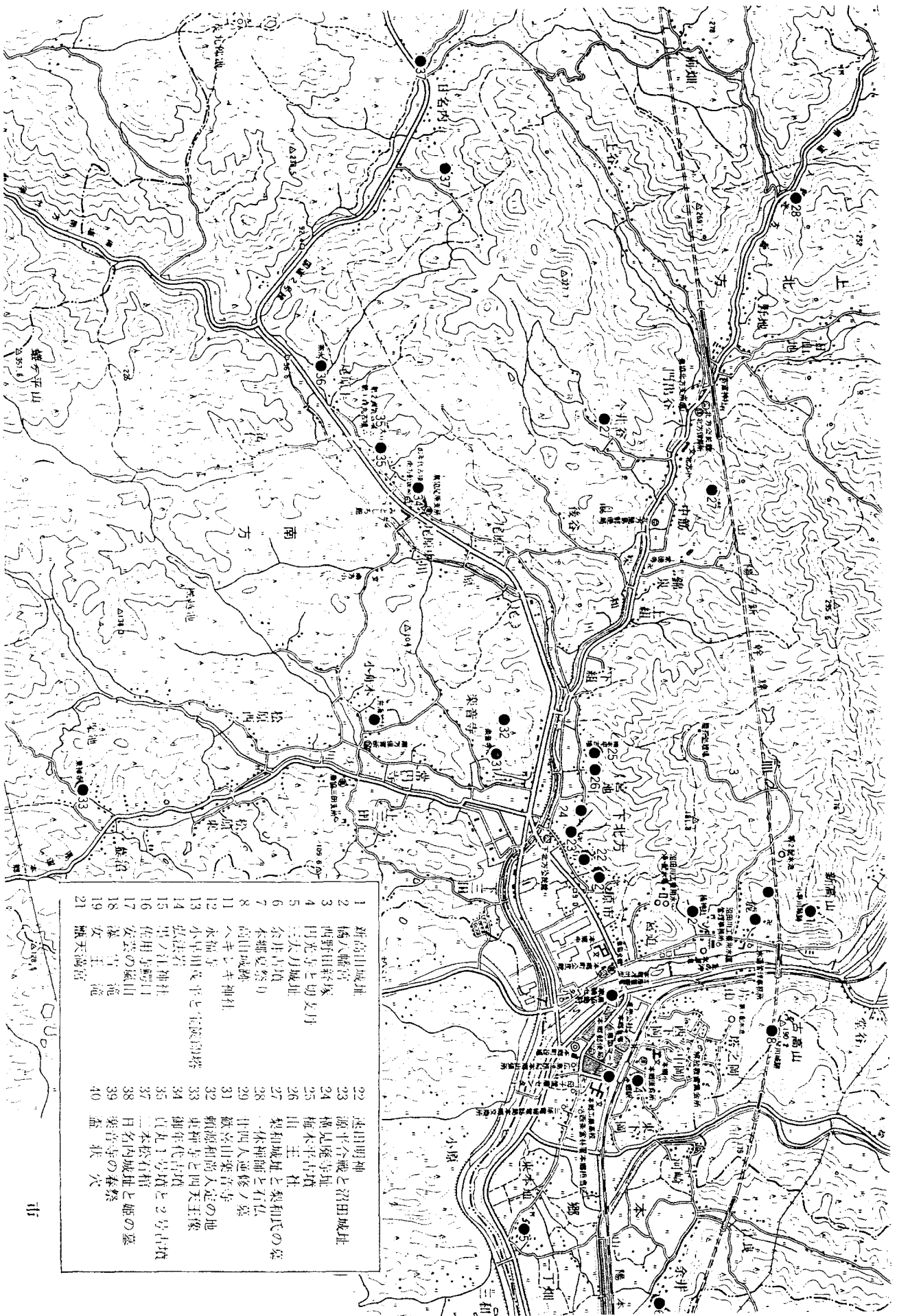


[illegible]

(6)



高山城跡測量図 (S=1:4,000)



- | | | | |
|----|------------|----|------------|
| 1 | 新高山城址 | 22 | 連田明神 |
| 2 | 橋入幡宮 | 23 | 源平合戦と沼田城址 |
| 3 | 内野田経塚 | 24 | 横山塚寺址 |
| 4 | 田光寺と切又丹 | 25 | 横山本平古墳 |
| 5 | 三矢力城址 | 26 | 山王社 |
| 6 | 余井古墳 | 27 | 梨相城址と梨和氏の墓 |
| 7 | 本郷夏祭り | 28 | 一休禅師と石仏 |
| 8 | 高田城跡 | 29 | 日西人逆修ノ墓 |
| 9 | へまじき神社 | 30 | 飯沼山薬青寺 |
| 10 | 永福寺 | 31 | 頼源和尚人定の地 |
| 11 | 小早川毛子と宝蔵門塔 | 32 | 東輝寺と西天王像 |
| 12 | 弘法寺 | 33 | 御年代古墳 |
| 13 | 里ノ江神社 | 34 | 貞久1号墳と2号古墳 |
| 14 | 伝明寺野口 | 35 | 二本松石積 |
| 15 | 安雲の嵐山 | 36 | 日名内城址と姫の墓 |
| 16 | 安雲の嵐山 | 37 | 日名内城址と姫の墓 |
| 17 | 安雲の嵐山 | 38 | 日名内城址と姫の墓 |
| 18 | 安雲の嵐山 | 39 | 日名内城址と姫の墓 |
| 19 | 安雲の嵐山 | 40 | 日名内城址と姫の墓 |
| 20 | 安雲の嵐山 | | |
| 21 | 安雲の嵐山 | | |

